

第2回合同学校運営協議会（田浦小学校・長浦小学校） 会議録

1 日 時 令和6年（2024年）6月25日（火）10：00～11：45

2 場 所 長浦小学校 2階 会議室

3 出席委員 15名

4 事務局等	教育政策課	課長	飯田 達也
	教育政策課	主査	大堀 圭輔
	教育政策課	主任	志村 洸哉
	教育政策課	担当者	松本 勇人

5 議事内容

○飯田教育政策課長（事務局）

定刻となりましたので第2回田浦小学校・長浦小学校合同学校運営協議会を始めます。
本日は、学校名について協議をしたいと思います。

4月16日の第1回合同学校運営協議会后、5月22日から6月18日の約一か月の期間で、児童、保護者、地域の皆さまから、学校名の候補について、多くのご応募をいただきました。

地域の皆さまには、ご協力いただきましたこと、この場を借りて感謝申し上げます。

また、今回の合同学校運営協議会を開催するに当たり、委員の皆さまにおかれましても、時間が短く、事前に学校名の候補をお選びいただきましてありがとうございました。

重ねてお礼申し上げます。

本日の学校名の協議の進め方について、詳細は後ほどご説明しますが、学校名の検討、候補の協議ということで、非常にセンシティブな内容となっています。

委員の皆さまにおかれましては、さまざまな思い、ご意見などをお持ちになられていると思います。

事務局としましては、皆さまのお気持ちは大事にしたいと考えているところですが、今後、両地域が良好な関係で統合を迎えることができるようにしたいと考えています。

本日の学校名の協議におきましても、両小学校、両地域が一つになるということを前提に是非、前向きな話し合いができればと思いますので、委員の皆さまのご協力のほど、よろしくをお願いします。

それでは、次第に沿って進行します。

まず、確認をしますが、会議録については公開したいと考えています。

会議録作成のために録音しますが、皆さまよろしいでしょうか。

《 各委員から異議なしの声 》

○飯田教育政策課長（事務局）

それでは次第１の（１）、学校名候補の応募状況についてです。

○大堀教育政策課主査（事務局）

次第の１の（１）学校名候補の応募状況についてご説明します。

資料１をご用意ください。

１の概要としては、実施期間は令和６年５月２２日から６月１８日の間で募集しました。

対象としては田浦小学校、長浦小学校に通学している児童、保護者、田浦小学校区、長浦小学校区にお住まいの方などです。

応募方法としては、紙媒体として児童に学校から配布していただき、投票箱に投票し回収いたしました。

地域には、町内会から回覧等により周知し、郵送等で申し込みを受け付けました。

電子媒体においてはホームページや、応募案内の二次元コードを読み取り電子申請システムから申し込みをいただきました。

２の結果についてです。

応募者数及び応募方法は、紙による応募が１０４件、電子による応募が１２１件、合計２２５件の応募がございました。

学校名の候補数は、種類として４３候補ございました。

応募者の区分については下の表のとおりとなっています。

続きまして、資料２をご用意ください。

事前にお配りしていますが、応募結果候補一覧です。

１ページが総括表で、候補名と応募数です。

応募数は、安針台の２４件、２ページ目の長浦の１２８件が多くなっているという状況です。

３ページ以降は、各候補についての応募数と応募理由をまとめた資料になっていますので、こちらも参考にいただければと思います。

学校名の応募状況についての説明は以上です。

○飯田教育政策課長（事務局）

今回、４３候補をいただきました。本当にありがとうございます。

この４３候補については、例えば２番と３番の按針と安針小学校といったように漢字が旧字体になっているなどがあります。

意識して旧自体にされている方もいらっしゃるようですが、そういった候補もあるので、種類としてはもう少し少ないと思います。

それでは、資料１と資料２についてご質問等ありますでしょうか。

○委員

応募者の分けについて、田浦小学校区の住民が少ないです。

募集は長浦小学校区と同じような形でされましたか。

○大堀教育政策課主査（事務局）

受け付けの方法は同じです。

○委員

連合町内会では話しましたか。

○委員

話していません。

各町内会で回覧だけです。

○委員

両地域が対等な関係で統合するという考えを基にという意味はよく分かります。

しかしながら、学校名を変えていくということを今後も続けるのかどうかを確認したいです。

膨大な金がかかります。

学校の校章から市役所の書類も全てを変えていかなければいけないということで、この経費はどの程度を見積もっていますか。

○大堀教育政策課主査（事務局）

経費については特に積算しておりません。

学校名を変えるということであれば、当然必要な経費は負担します。

○委員

以前に学校名が変わった際はどの程度かかりましたか。

○大堀教育政策課主査（事務局）

手元に費用の積算がないのでお答えしかねます。

○委員

市民の税金です。

その都度このようなことをやっていくと、膨大な金がかかります。

次にやるときは税金のかからないようなやり方を考えてもらいたいと思います。

また、二つの地域で集計をして、教育委員会も膨大な稼働がかかっていると思います。

他に傾けたほうが良いと感じます。

例えば、子どもたちが安全に通うためのツールなどに力を使うべきではないかと思います。

○大堀教育政策課主査（事務局）

学校名が変われば当然その分のお金がかかるというご意見として伺います。

通学の話がありましたが、それは学校名とは別で方策を実施するので、また別の話だと考えています。

今後については統合の形態等にもよりますので、学校名の検討については、ご意見としてお預かりしたいと思います。

予算全体のお話をいただきまして、全体の費用は手元にありませんが、例えば校歌や校章を変えるということにおいては、前回の統合の際はそれぞれ 50 万円ずつ予算計上しました。

○委員

校歌の話が出ましたが、ご存知のように長浦小学校の校歌は作詞サトウハチロー、作曲松田トシという貴重な人の作です。

日本の国の名家と言いますか、ものすごい方の作詞作曲です。

このようなものを疎かにしていくということはどうかと思いますので、市として大事にしていくという考えをしていただきたいと思います。

この 2 人が作詞作曲した校歌というのは全国でも貴重です。

よろしくお願ひしたいと思います。

○委員

本日の会議は、何を目的に開かれるのでしょうか。

○大堀教育政策課主査（事務局）

学校名の候補について応募をいただいていますので、その応募の中から候補の絞り込みをお願いしたいと考えています。

一つに絞ることはなかなか難しいと思いますので、後程ご説明しますが、5 候補程度まで絞り込んでいただければと考えています。

○委員

その校名の検討については、前段からあるとおりに、田浦小学校と長浦小学校の児童、保護者、地域が対等の関係で統合すると考えるという主旨があると思います。

そこを忘れずに会議を進めていただければと思います。

○大堀教育政策課主査（事務局）

その視点は前提としてあります。

この場において、改めて確認したということをお願いいたします。

○委員

応募状況に偏りが見られます。

このままで良いのか疑問に感じます。

先ほども町内会長にお伺いしましたが、田浦小学校区の住民が 12 しかありません。

連合町内会長だけでも全員入っているかどうかという数です。

どのように絞り込みを行うのでしょうか。

○飯田教育政策課長（事務局）

次第の次が協議方法ですので進めます。

それでは、次第 1 の（2）です。

学校名候補の協議方法等についてご説明いたします。

○大堀教育政策課主査（事務局）

学校名候補の協議方法等についての説明資料をご用意ください。

協議方法の全体的な流れをご説明したいと思います。

1、学校名の協議に当たっての視点（案）です。

資料 3 の項目を合同学校運営協議会及び教育委員会会議の共通の視点として進めたいと考えています。

同じ考え方で、それぞれ協議、検討をしていくという趣旨です。

この項目案については教育委員会において検討しますが、まずは合同学校運営協議会の皆さまにご意見を伺いたいと思っています。

次に 2、学校名候補の協議方法等です。

事前にご提出いただいた 3 候補の集計結果を参考に協議します。

事前提出の 3 候補の集計結果表において、各案に対する応募者からの応募理由をまとめた概要を記載したものが資料 4 です。

先ほど申し上げたように、教育委員会としては 5 候補を目安に絞っていただければと思います。

また、絞れるのであれば 5 候補以下でも結構です。

資料 4 の右に、それぞれの候補にかかる理由の概要があります。

候補を絞った後に、この理由についてご意見をいただいて、合同学校運営協議会としての提案理由としたいと思っています。

応募理由はいろいろいただいておりますが、簡単にまとめたものですので、後程委員の皆さまに合同学校運営協議会としての提案理由についてご意見をいただければと思います。

○飯田教育政策課長（事務局）

前回の合同学校運営協議会の中でもスケジュールについて触れましたが、ご応募いただいた候補の中から合同学校運営協議会で選定をしていただき、その選定していただいたものに対して教育委員会で決定するとう流れです。

スケジュールとしては、今年の 8 月に教育委員会会議で決定したいと考えています。

学校名の決定については教育委員会の専決事項ですが、市議会には 9 月に議案として提出したいと考えていますので、ぜひご検討いただければと思います。

○大堀教育政策課主査（事務局）

ただいまご説明した進め方についてのご質問等がございましたらお願いします。

《 各委員から意見なし 》

○大堀教育政策課主査（事務局）

それでは、学校名候補の協議に当たっての視点ということで、資料3をご用意ください。

合同学校運営協議会と教育委員会において共通の考え方で学校名を検討していくという趣旨で、5つ項目立てしています。

- 1、一般的な読み方ができなかったり、読み方が何通りもできる学校名でないこと。
- 2、他の地域に類似の学校名がなく、誤解されることがないこと。
- 3、地理、歴史、自然環境など、その学校が持つ特色等に合っているか。
- 4、学校名をつけた理由が明確であるか。
- 5、両校の児童や地域が親しみやすく、受け入れやすい学校名か。

という項目です。

なお、この項目はあまり細かく限定しないよう、意図的に幅広い項目になっていますので、ご留意いただければと思います。

この視点について、何かご意見がありましたらお願いします。

○委員

資料4は、集計された数字とかけ離れています。

これは意図的に教育委員会で作ったということで良いですか。

普通であれば一番数の多い順だと思います。

長浦が58%で一番上に来るはずで、続いて安針台が11%です。

このような見方をしていくと、ここに書いてある田ノ浦は3%に至りません。

○大堀教育政策課主査（事務局）

今は資料3の話をしているので、お話が先に進んでしまいましたが、ご説明してよろしいでしょうか。

《 各委員から異論なし 》

○大堀教育政策課主査（事務局）

資料4は、事前に合同学校運営協議会の委員の皆さまから3つ選んでいただいた候補の集計です。

資料の右上に記載がありますように、各委員からの得票数順かつ五十音順です。

応募数順ではありません。

資料4には得票数は記載していませんが、二重線で囲まれている1から3が同数で、その五十音順です。

その次が4の安針・按針、その次が5の田浦長浦で、その次が2枚目の6から15で同じ

得票数となっています

繰り返しになりますが、応募数順ではなく、二重線の枠ごとで合同学校運営協議会委員からの得票数が多かった順に記載しています。

○委員

事前の委員の投票数が記載されていないのはなぜですか。

○大堀教育政策課主査（事務局）

投票していない委員がいたので、投票数については記載していません。

○委員

そのような状態のものをなぜ資料4に掲げているのでしょうか。

○大堀教育政策課主査（事務局）

今回、地域の皆さま、子どもたちから多くのご応募をいただきました。

その全てを皆さまに提示して候補をお選びいただくのは難しいと考えました。

そのため、事前に委員の皆さまには3つの候補を選んでいただき、その集計結果を参考として協議を進めようという趣旨です。

○委員

委員の方はこのように表しました。

一般の方、子ども、地域の方はどのような判断されますか、というように出すのが本来ではないですか。

なぜそのような順序を追わずにやるのかということを知りたいです。

○大堀教育政策課主査（事務局）

これから学校へ通う子どもたち、保護者のご意見を伺うことを大事にしたいと考えました。

あわせて、学校への思いがある地域の皆さまにご意見を伺いたいということで、まず募集しました。

そのご応募いただいた候補の絞り込みについて、各団体の代表であり学校を支える方々が集まっている合同学校運営協議会において、ご意見をいただいて候補名を絞っていきたいと考えています。

その絞られた候補において、教育委員会でその意見を尊重して決定したいという主旨から、今回の手順になっています。

改めまして、資料3についてご意見等がございましたらお願いします。

○委員

横須賀市立小中学校適正配置審議会で答申があったときに、付則として付けられた事項が2つあります。

児童の登下校の安全の部分と、子どもの心情に寄り添ってというところが付則として付け加えられていたと記憶しています。

そのような意味から、視点の5については大事にしていきたいと思っています。

○大堀教育政策課主査（事務局）

今後、教育委員にもこの視点等について説明しますので、今のご意見はしっかりと伝えたいと思います。

○委員

田浦も長浦も地名です。

どの小学校の名前も地名で付けられています。

町内の役員等いろいろな団体がありますが、統合の話が出ると、現在の学校のある場所の地名が良いのではないかという意見が多いです。

一度両校を廃校にして新しい学校ということで長浦小学校という名前をつけた場合は、お金がかからないです。

ペリー来航の江戸末期には、田浦管内全体は長浦村でした。

海の湾が長浦湾になっていて、全部長浦でした。

海を通して江戸で物流を図っていて、人物の往来は浦賀道を通っている、そういった深い歴史があります。

現在は消えてしまうような長浦ですが、以前はそういった歴史があるということです。

お金がかからない方に持って行って、田浦の方が以前から心配されている通学の安全についての資金にした方が良いのではないかと思います。

余分なお金を使わずに、そちらに資金を全部は持っていくということであれば、そのままということで良いのではないかと思います。

○大堀教育政策課主査（事務局）

今のご意見は資料4に関する話です。

今は資料3のご意見を伺っていますので、ご意見としてお預かりしたいと思います。

資料3についてはよろしいですか。

《 各委員から意見なし 》

○大堀教育政策課主査（事務局）

それでは、この視点で本日の協議、教育委員会会議を進めます。

改めまして、資料4、学校名候補の協議についてです。

これまでもお話が出ているように、1から3が事前の委員得票数が同数です。

その次が4、その次が5、その次が6から15で同数です。

ここで確認ですが、教育委員会としては目安として候補程度と考えています。

事前に委員の皆さまからいただいている状況としては、1枚目の1から5で5候補あります。

2ページ以降からも候補に残した方が良いのではないかとのご意見があればいただければと思います。

若しくは、今申し上げた進め方では不満だという方がいれば、それもあわせてご意見をいただければと思います。

○委員

この選定に当たって、横須賀の財政がどうなっているかご存知ですか。

ものすごく苦しくなっているわけです。

人口は減る、工場はなくなってきているという最中に、このような金のかかることをやる必要があるのかないのか、そこを問うべきではないですか。

○大堀教育政策課主査（事務局）

必要なお金は当然支出します。

○委員

そのお金は誰が出すのでしょうか。

教育委員会ですか。

○大堀教育政策課主査（事務局）

違います。

前提として、この学校名の検討は、両地域が対等の立場で子どもたちが新しい環境になれるような形での統合という一つの考え方があります。

それに対してこの検討が必要であると考えていますので、その結果として学校名が変わるのであれば、それに対する手だては必要だと考えています。

お金がかかるということは一つの意見だと思いますので、合同学校運営協議会における一意見としてお預かりして、教育委員会に報告したいと思います。

○委員

いかに税金をかけないで統合していくかが一つの課題だと思います。

統合される方と統合する方の双方を見れば、先ほど言われたように、お互い譲り合うところがあるでしょうということもよく分かります。

分かりますが、横須賀市として今後考えていかなければいけないことをしっかりと出していかないとはいけません。

そのようなところを教育委員会として大事に考えてもらいたいです。

一番金をかけなければいけないのは子どもの安全です。

学校名を変えるために金なんてかける必要は何もないです。

○大堀教育政策課主査（事務局）

長浦小学校という名前を候補の一つとする、名前を変えたくない、お金がかかるという課題があるという一意見としてお預かりします。

○飯田教育政策課長（事務局）

委員がおっしゃるように、予算の視点は大事だと捉えています。

ただ、教育に関わる小学校の名前というものも大事なことだと思います。

そのため、合同学校運営協議会で整理して、教育委員会に上げていただくというプロセスを組み、学校名を検討しています。

結果的に学校名がどうなるか分かりませんが、仮に学校名が変わったとしたら、当然、関連する予算というものは教育委員会だけで決まるものではございませんので、必ず必要な予算について市議会に説明します。

その中で、横須賀市全体の予算の使い方として適切であればご賛同いただけますでしょうし、ご賛同いただければ否決されるという市議会の仕組みです。

今いただいた意見は、あくまでも学校名を検討する一つの理由としてご意見をいただいたと認識します。

○委員

5割以上が長浦小学校にしたいと言っています。

なぜ参考にしないのでしょうか。

○大堀教育政策課主査（事務局）

今回の学校名の検討に当たっては、応募、検討の前提として、得票数では決めないというお話をしています。

得票数で決めるということにして、票を集めた方に決定するという状況にならないような形で検討したいという趣旨から、応募理由も添えていただき、適切なもの、皆さまが良いと思われるものがどのような学校名かを決めていきたいと考えています。

ただ、応募数の数字はありますので、あくまで参考として記載しています。

たくさんのご応募をいただき、合同学校運営協議会で候補を選定していただくための一つの参考指標ということにはなると思います。

○委員

田浦地域の応募数が少なく、長浦地域の応募数が多いというお話が出ています。

長浦小学校での取り組みとして、朝会で子どもたちにお話をしたり、分かりやすいところに投票箱を置いたり、学校だよりを締め切りの少し前に出して記事を掲載したというような経緯もあって、少し数が多くなったと思います。

また、田浦小学校の方の興味関心として一番大切なところは、通学の安全だと思います。

長浦小学校の子どもたちは通学に関しては変わらないので、地域や保護者も学校名への関心が高く、票数に表れているのではないかと思います。

田浦地域の方と長浦地域の方では課題への受け止め方が違うというところが、数に表れていると思うので、教育委員会の方が言われているように、得票数ではない部分で検討して

いかなければいけないと感じたところです。

また、先ほどから言われている税金についてもあります。

地名で付けるべきだと思っていましたが、確かにいろいろな意味でお金がかかるというのは大きな課題です。

今後の市の方針として、今回のケースでかかった予算等を鑑みて、どのような方針を出すのかというところはぜひ参考に残していただきたいと思います。

先ほど、過去のケースでは50万円ずつの予算を計上したと言われましたが、おそらくそれでは収まりません。

校旗、体育館の緞帳などを作り替えると100万円単位でかかると思います。

それ以外にもかかるお金はたくさんあると思うので、そのような事例を出しながら、税金の使い方として学校名をどのように考えるのかということで、今後の参考にさせていただくよう、ぜひ資料として残していただきたいと思います。

今回のことは一つの意見として、お金のことも受けとめていただくのは良いですが、市がどのような方針を出すのか、今後ぜひ参考にさせていただきたいと思います。

票数についてもそのような思いがあって、学校の子どもの思いも保護者の思いも違うところにあるということを中心に、検討していただきたいと思います。

○大堀教育政策課主査（事務局）

長浦小学校という名前を一つの候補として挙げるに当たっての考え方として受け取ります。

候補の絞り込みですが、ご意見としては長浦小学校という名前を残すというご意見がありました。

その他の候補の絞り込みですが、1ページ目で5候補あります。

2ページ目以降は委員の得票数が同数ですが、こちらから候補とすることのご意見がなければ、1ページ目の5候補に絞り込みをしたいと思います。

いかがでしょうか。

○委員

例えば長浦、田浦、安針台といった地域の名前から取ると、嬉しい人も気に入らない人もいます。

そのため、全く新しい名前にしてしまった方が良いのではないかと思います。

お金の部分もそうですが、田浦小学校の備品などは今後どうなるのでしょうか。

○大堀教育政策課主査（事務局）

使えるものは長浦小学校に持っていきます。

○委員

備品には田浦小学校、長浦小学校という名前が書いてあると思いますが、それはそれとして残して、使えるものは使っていただければと思います。

名前がどうなるか分かりませんが、そこはもうお金かけてもらうしかないです。

新しくなった部分についてはお金をかけてもらって良いのではないかと思います。

地域から取ると悲しむ人や気に入らない人、喜ぶ人が絶対に出てくると思います。

1 ページ目の安針台も地域だし、田ノ浦も昔から呼ばれていますが、これもどうかと思います。

長浦小学校を残したい気持ちはすごく分かります。

私の子どもも残したいと言っていたのでそれは分かりますが、そうすると悲しかったり気に入らない人がいます。

安針であれば安針塚の駅があるので良い気がします。

田浦長浦というのも良いと思いますが、長浦田浦というのはなかったですか。

○大堀教育政策課主査（事務局）

応募がありませんでした。

○委員

長浦の理由を見てみると、長浦の長と田浦の浦を取って長浦となっていますが、こんなものはこじつけです。

次のページには新しい名前があるので、こちらから取っても良いという考えです。

○大堀教育政策課主査（事務局）

具体的にどの名前を候補として残すか、ご意見があれば伺えますか。

○委員

カタカナでアダムスが良いと思いました。

ウイリアムを付けても良いとも思いましたが、それは長いと思いました。

それか、くじら雲もあります。

横須賀東だと少し分かりづらいと思います。

長田浦では長浦が先なので、田浦の人がどう思うかということがあります。

そういったことを考えると、地名に全く関係がなく、この地に根づいて歴史があるようなアダムス、安針といったものが良いという感じはします。

○大堀教育政策課主査（事務局）

6 のアダムス、9 のくじら雲を候補として残すというご意見でした。

○委員

くじら雲は長浦小学校に関係しているので、アダムスだけで良いと思います。

○大堀教育政策課主査（事務局）

それでは、アダムスを候補に残します。

その他に候補として残す、若しくは候補から外すといったご意見があれば、全体的にお願いします。

○委員

個人的には田浦が良いと思います。

ただ、先ほど皆さまが承認した協議に当たっての視点がありますので、どちらかの地名を取ってしまうと、両校の児童や地域が親しみやすく、受け入れやすいという視点がないがしろになってくると思います。

田浦が良い理由として、ご存知のとおり船越小学校との合併も視野に入っていると思います。

地域別協議会が始まる前から横須賀市には提案をしております、長浦小学校と田浦小学校の合併ではなく、5年後や10年後を見据えて、船越小学校、長浦小学校、田浦小学校を合併する方向で話を進めてくれないかと思っていました。

また、田浦中学校がありますので、地域外から見ると田浦小学校を残すのが一番スマートなのではないかと思いました。

ただ、公平不公平が出てきてしまうので、アダムス、くじら、横須賀東といった案もあると思います。

横須賀東になっていますが、行政でいうと北になるのですか。

○大堀教育政策課主査（事務局）

おっしゃるとおりです。

○委員

北という案があれば北だと思いました。

提案として、田浦小学校と長浦小学校という案を候補から削除するのも一つの方法としてあると思っています。

○委員

安針台、田浦、長浦は地名から取っています。

第三者的に納得できる名前として、学校が建っている地名である安針台がお互いに一番良いのではないかと考えています。

町の中も大体そのような考えではないかなと思います。

田浦の方も納得できるのではないかと考えているという話で固まっています。

アンケートはバランスが崩れて圧倒的に長浦ばかりになっているので、参考にならないと思います。

補足ですが、三浦安針に関係する名前は、逸見小学校や沢山小学校の検討がこれから始まる中で、あまり使いたくありません。

そうするとそちらの名前がなくなってしまいます。

学校名を検討すれば必ず、安針といった名前が出てくると思います。

安針台であればよろしいのではないかと思います。

田浦の方、長浦の方、それぞれの思いがあると思いますが、中間的なところで推薦したいと思います。

○大堀教育政策課主査（事務局）

先ほどお話が出ましたが、田浦、長浦という候補を外すというのは難しいと思いますので、候補としては残した方が良いでしょう。

ここで一つに決めるというのは本当に難しいことだと思いますので、最終的には教育委員会が責任を持って決定します。

皆さまのご意見を伺って、教育委員にお伝えし、責任を持って決めていきたいと考えています。

これまでの話をまとめますが、10の田浦を候補としますか。

○委員

長浦を残すのであれば残して良いでしょう。

○大堀教育政策課主査（事務局）

5の田浦長浦はどうでしょうか。

候補として残すということは、その名前に決定する可能性があるというご認識でご意見をお願いします。

○委員

不公平感がすごくあります。

長浦田浦があれば良かったですが、それが無いので候補から外して良いでしょう。

○大堀教育政策課主査（事務局）

それでは、1の安針台、2の田ノ浦、3の長浦、4の安針・按針、6のアダムス、10の田浦の6候補としてよろしいですか。

○委員

私は久里浜高校出身で、統合で2回ほど名前が変わっています。

正直、母校感は全くありません。

市の方針としてはどうなのでしょう。

私たちが選んだとしても、最終的には教育委員会の皆さまが決めるのであって、私たちの意見はどこまで反映されるのか見えないところが大きいです。

皆さまがどのように思っているかを知りたいし、今後も統合が続いていく中で、また学校名を変えるのかという意見もありました。

予算的にどういった方針なのか分からずに、好き嫌いやセンスで学校名を決めるものなのでしょうか。

本日は絞り込みをして終わると思いますが、走水地域がどのように決まったかも分かりませんし、今後も各エリアで学校名の話をしていくのでしょうか。

それは学校運営協議会のメンバーに委ねることなのでしょうか。

皆さまがお忙しい中集まったのにも関わらず、いろいろな意見が出て最後は教育委員会で決めるのであれば、この会の意味は何なのかという疑問があります。

委員の皆さまの意見を聞いて、今どのようにお考えなのかをお聞きしてから決めていただきたいと思います。

○大堀教育政策課主査（事務局）

まず、決定権限は教育委員会会議にあるということはご了承いただきたいと思います。

ただ、権限があるからといって勝手に教育委員会の独断で決めることは望ましいとは思いません。

地域の皆さまのご意見やお考えを伺った上で、それを参考に決めるのがよろしいと考えて、まずは募集を行いました。

今回、地域代表の方々と集まる合同学校運営協議会でご意見を伺いながら候補を絞っていただき、そのご意見等を参考にしたいと考えています。

今後、統合等については全市的に検討していかなければいけませんが、これまでご説明しているとおり、過去の統合の事例で学校名が変わった事例と、学校名が変わってない事例があります。

変わっていない事例は、児童数が増えた時期に分離した学校です。

その後、児童数が減ったので元の学校に戻したというケースは、全て元の学校名のままになっています。

唯一学校名が変わった事例として、坂本小学校と青葉小学校の統合があります。

これは分離した学校ではなく、それぞれ独立して存在していた学校が統合したケースですので、今回と同じような手順で募集して、選定委員会で選考し、教育委員会で決定したという過程です。

今回の事例では、田浦小学校と長浦小学校はそれぞれ単独で存続していますので、過去の事例でいうと坂本小学校と青葉小学校の事例に近いと思います。

今後の方向性については、これまでの該当校の経過や経緯を見ながら判断していきます。

○委員

田浦小学校の保護者の応募数を見ていただくと、最下位の5件です。

元々、学校名の話をしている場合ではなく、他の案件を先にやってくださいという要望の中で本日に至っている事実がありますので、投票数では判断していただきたくないと思っています。

その中で、市民から応募するということは、耳ざわりは良いですが、本当に正しいことかという疑問も感じてしまっています。

協議に当たっての視点を真剣に考えていただいて、予算等もあると思いますのでぜひ検討していただいて、最終的に決めていただければと思います。

○委員

長浦小学校PTA会長です。

この応募数を見ていると、田浦小学校の児童が20しかないということがとても気になっています。

ここにいらっしゃる方も子どものことを考えて、長浦という名前では何か肩身が狭い思いをするのではないかと心配されていると思いますが、子ども自体はそんなに気にしてないのではないかと思います。

田浦の方たちは名前を変えてほしいと思っていると思っていましたが、投票数が少ないのが意外で驚きましたし、どうしてほしいのか分かりません。

長浦地域の多くの方は長浦小学校のままでいられるのであればそうしてほしいと思っています。

数だけで選んではいけないというのは分かりますが、全体的に関心が低く、長浦小学校という名前は絶対に変えてほしいという雰囲気でないのであれば、いろいろな面から長浦小学校のままで良いのではないかと思います。

いろいろなところにお金もかかりますし、PTAの立場から言っても名前が変わるといろいろな仕事が増えます。

PTAもすごく人数が少ないですし、やることはたくさんあるので、どちらでも良いのであればこのままで良いのではないかと思います。

田浦小学校の人たちが、例えば安針台や田ノ浦といった長浦ゆかりの名前では納得せず、結局変えても意味がないのであれば長浦小学校のままで良いのではないかという気持ちもあります。

アダムスにすると逸見の人が気にするというような発言もあり、非常に難しい問題なので、変えれば良いというものでもないと思いました。

○委員

田浦小学校関係者の投票数の問題ですが、その前にやってほしかったことがあるという状況はご理解いただきたいです。

学校の取り組み状況についてお話すると、学校名を投票しよう、という働きかけは強くはしないという共通理解で取り組んできました。

子どもたちや保護者の方々の感情もありますし、さまざまなことに納得していない状況で学校名について押し出していくことは、田浦小学校の中では控えました。

田浦小学校としては投票用紙を配り、保護者に対してその旨のメール配信をし、投票箱は、子どもたちが一番投票しやすい場所に、教頭が子どもたちの身長も考えて投票しやすい高さに設置しました。

そのような環境は作りましたが、絶対投票しなければいけないというような環境づくりはしなかったということをご報告いたします。

○委員

田浦の皆さまの抵抗される気持ちはすごく分かりますが、結果としてこの数字が出てしまっています。

田浦の人はどのような名前をつけると納得がいくのか、考えるのが難しいのかなと思いました。

○委員

公募に当たっては、先ほど事務局から説明があったとおり、投票数ではないということを重々承知の上で、そこを基盤に考えていますので、数で判断はしていただきたくないです。

○委員

少ない投票数の中で、田浦の皆さまの意思表示をしたということですか。

例えば、梅の里や梅桜といった応募がいくつかあったので、このようなものは田浦の方からの応募なのだと思います。

数だけでは決められないというのはもちろんですが、候補を選んだときに、私は長浦の住民なので長浦の住民としてこうあってほしいという名前を選びました。

ただ、3つ選ぶときには田浦の方の思いを感じ取れるものがあれば、それを候補に入れようと思いました。

しかし、1票ずつ程度のものしかなく、選べませんでした。

もちろん田浦の方々の感情もすごく分かりますが、進めていかなければいけないので、田浦の方たちはどのような名前だと納得するのか知りたいです。

変えたとしても長浦由来の名前だと、長浦に来たくないという人たちの気持ちは収まらないと思って、気になったので質問しました。

○委員

P T Aも含めて保護者の大半が、学校名の前に決めることがあるだろうと思っています。

保護者の7割程度が、そこをまず決めないと学校名のことなんて答えられないという状況です。

その中で、教育委員会から学校名を決めなければいけないので候補を募集するという連絡があり、田浦小学校長は各家庭に配付できないと言っていました。

そのような気持ちは正解だと思います。

学校が何も連絡せずに、各家庭側に募集のプリントを配ったら大変なことになっていたと思います。

学校に苦情が入って、学校や教育委員会は何を考えているのかという話が増えたと思います。

そのため、校長は投票をしてくださいという案内ではなく、募集があることの周知といった形で配ってくれたので、応募者が少なかったです。

家庭の中でも、募集されても保護者も児童も分からない状態で、応募者が少なかったという状況があると思います。

これを基に話を進めていくのであれば応募数は考えないでいただきたいです。

○委員

田浦の子ども達や地域がどのように考えているのか分からないというのであれば、校名についてはもう一度検討が必要だと思います。

募集はしたが、委員の中でこれが本当に正解なのか、全部の方々が納得する名前が出ているのか疑問なのであれば、学校名の募集をもう一度やる、若しくはやり方を変えて話を進めていくというのも一つの手なのではないかと感じました。

○委員

田浦の皆さまが市に不信感を抱いて、応募できないのは当然のことだと思うので、教育委員会にたくさん苦情が入れば良いと思いました。

私たちが抗議をしても、市や教育委員会の皆さまは淡々と進めていきます。

本日候補が決まってしまうと、そのまま学校名は決まってしまうと思いますが、それで田浦の方たちは良いのでしょうか。

○委員

公平な立場でのアンケートになっていないので、偏りが出てしまっており、ここから選べというのも少し難しいかと思います。

長浦小学校という名前で押し通せば通るかしれませんが、これから一緒になって子どもたちが教育を受ける場の名前を作るのですから、禍根を残さず円満な形で名前をつけた方が良いと思います。

これは長浦というよりも、田浦の方々が教育委員会ともう一度よく話してください。

課題になっている通学支援についての議論を深めていただいて、再度学校名のアンケートとらなければ進めないということなのか、このまま進めて良いのか、検討していただければと思います。

○委員

田浦の応募数が少なかった理由として、今までの地域別協議会では港が丘1丁目と田浦町6丁目は、正規の理由がない限りは全て長浦小学校だと言われていました。

それが先月の説明会では、船越小学校と言われました。

いきなり変わっておかしいです。

それでは近くの4、5丁目の人も船越小学校に行きたいと思います。

長浦小学校まではトンネルが三つありますが、船越小学校であれば一つです。

そのうちの一つは、倍ほどの長さです。

そのようなことを言われたら冷めてしまいます。

子どもに船越小学校に行きたいと言われたら、学校名なんて出さないと思います。

なぜ変わったのか知りたいです。

○大堀教育政策課主査（事務局）

港が丘1丁目と田浦町6丁目の話ですが、地域別協議会での検討の中では、基本的には学区が大事である、地域活動や町内活動に影響するというお話があり、学区としては長浦小学校と田浦小学校を合わせたものという方向性です。

この基本は崩れておりません。

ただ、保護者の方からのご要望として出ているのが、港が丘1丁目と田浦町6丁目は船越小学校の方が近く、すでに指定変更している方もいるということです。

こちらのご要望に応じつつ、学区を変えるのではなく、申請によって船越小学校に変更できる地域に指定するとことを考えています。

区域を変えたということではなく、あくまでも長浦小学校区で、ご要望に応じて船越小学校も選べる区域に設定しようと考えているのが現状です。

○委員

長浦の人達から、どうすれば田浦の人が納得する名前になるか、とおっしゃってもらっていますが、田浦の人は、学校側のいろいろな立場、保護者の立場、地域の立場を感じると、どのような名前だから納得をすとか、喜んで行くというような心境ではないと思います。

受け入れる側となくなる側の立場というのは、それぞれの立場になってみないと分かりません。

数が少ないからアンケートをもう一度やったとしても、田浦が納得をする名前ということにはなりませんし、そもそも名前によって納得するというような気持ちではないと思います。

そのような気持ちを長浦の方々にも理解していただいて、教育委員会も判断をして、最終的には決めていただければ良いかと思います。

再度この案件を田浦に戻して、もう一度納得いく名前を絞り出すということに対しては賛成しかねます。

○委員

皆さまが納得する名前というのは好みもありますし、田浦の子どもたちは長浦の地域などをあまり知らないので、思いをはせながら名前をつけるのはすごく難しい作業だったと思います。

長浦の子どもたちは一生懸命、76人が田浦の子どもたちのことも考えながら応募しました。

長浦小学校の第1票目は、長浦の長と田浦の田を取って長田小学校と書いてありました。

今回、いろいろな思いを子どもなりに考えながら投票しています。

数ではありませんが、長浦小学校の半分以上の子どもが応募しているという思いも大切にしていきたいです。

田浦の子どもたちは、学校や場所が変わる、船越小学校かもしれないという話が出ていて、いろいろな意味で揺れ動いていることを、ぜひ教育委員会に伝えていただきながら、この状況を理解していただいて、ある程度の候補の中で選んでいただくしかないという思

いがあります。

もう一度やり直すというと、今回応募した子どもたちの思いはどこに行くのかということも含めて考えていただきながら、候補を絞っていく作業しかできないと思います。

田浦の方も苦肉の策の中で候補を挙げたということも伝えていただきたいと思います。

○委員

候補の決定に当たって、いろいろな方の思いが分かりました。

候補を絞ることが難しい段階です。

今回の話し合いの結果は、教育委員会では参考にしかないのか、それともすごく重みを持って決めるのでしょうか。

青葉小学校と坂本小学校の事例から、今回もそのようなことになるような発言がありましたが、そうすると名前が変わるということが決まってしまうのでしょうか。

○大堀教育政策課主査（事務局）

変わるか変わらないかということではなく、それを検討するというのが、青葉小学校と坂本小学校の事例に近いという説明です。

○委員

田浦の人と長浦の人で、どちらもお互いのことを分かってくれないといった話になりますが、私たちを関わせるのではなく、教育委員会の方たちはどうすべきなのかということを含めて今一度よく考えてほしいと思います。

○委員

学校名は恣意的なものなので、全ての人が納得するということはありませんというのが定説だと思います。

その中で学校名を考えたときに、本日の目的は候補を絞って教育委員会に上げるということだと思います。

その際のお願いになりますが、対立構造になってしまったり、ネガティブな心情というものがどうしても生まれてきてしまいます。

それが、4月以降に子どもたちに対して影響する懸念があるというところにまず立つ必要があります。

私は地名が良いと思いますが、そのような心情がこの会議の中でも、たくさん生まれているということをぜひ上げていただきたいと思います。

現実にはコストの問題もあります。

例えば、本日の会議を開くだけでコストがいくらかかっているのかということを考え始めているということが現実的なところだと思います。

見えないところでもそういったことが発生していますので、そういったところも含めて、できるだけネガティブな心情がこれ以上広がらないようにということが、資料3の5つ目の視点に関係してくると思います。

○委員

統合の決定権は教育委員会にあるという話を当初聞きました。

同じように、統合は今後増えると思います。

人が減っていますし、子どもも少なくなってきました。

市の方針として、このような人数になったら統合する、統合に当たってはこのような考え方をしていくということを一度市議会で審議してはどうですか。

そのためのお金はいくらまでだということも大事なことだと思います。

話を聞いていると教育委員会が突っ走って、結果だけ知らされて終わってしまうと思います。

例えば全校1クラスでも良いです、そういった少人数の学校ができたならば統合を図ります、ついてはこのように統合していきます、という一つの方針を整理しておかないと、廃校になる方は困るはずです。

来てもらう方は安泰です、何も考えることはありません。

通学についてはこのような手段を考えますというようなものを整理した上で、統合を図りますということを、早めに市民へ周知してもらえればありがたいと思います。

○大堀教育政策課主査（事務局）

市の方針については、横須賀市小・中学校の適正規模及び適正配置に関する基本方針というものがあります。

横須賀市立小中学校適正配置審議会における審議、パブリックコメント等を経て策定しています。

基準としては、小学校で11学級以下の学校は、適正化の検討対象となっている状況です。

近年、教育環境整備計画というものを策定して検討を開始しましたが、規模の課題だけではなく学校施設の老朽化などもあります。

建て替えの時期が迫っています。

また、建て替えの際にはレッドゾーンなどの課題もある中で、教育環境をどうしていくかということが今回の検討のきっかけとなっています。

方針についてはこのようになっています。

通学については最重要事項と捉えています。

安全に通学できるようにすることが最重要事項ですので、今の段階でそれをお示しできてないというところについては誠に申し訳ないと思っています。

7月に保護者説明会等を開催して、通学の安全策についてご説明したいと考えていますので、よろしくお願いします。

○委員

過去にPTA会長だった委員もいますが、長浦小学校のPTA会長はほとんど吉倉町の方がやっています。

吉倉町の方は、学校が吉倉町の一部に引っ越してきた形です。

学校が越してきて、吉倉町の方はほとんど長浦小学校に来ました。

学校名などにこだわりは特になくて、近い方が良いということだったのでしょうか。

○委員

私も逸見小学校出身なので、子どもも逸見小学校へ行かせたかったのですが、他の家族は全員近い長浦小学校の方が良いということでした。

逸見小学校、沢山小学校、桜小学校、汐入小学校が合併すると、逸見の人は絶対に長浦小学校に来ます。

今と同じ状況が発生すると思います。

今現在でも防災訓練等で来ている方もいます。

○委員

学区とは関係なくフリーに考えた方が良いと思います。

○委員

教育委員会は以前から、正規の理由がなければ変えられないと言っていました。

近いから、という理由では変えられないと言っていました。

○飯田教育政策課長（事務局）

学区に関しては近いからという理由での変更は当然できないという話をしました。

ただ、この統合を決定した後に、さまざまな方からいただいたご意見を考慮して、学区を変えるということではなくて、その方々のご判断で変えられる地域にしたということです。

○委員

町内会の活動は起点が小学校なので、防災訓練や健民運動会といった大きなイベント等は、吉倉町の方も一緒です。

町独自でやるものもありますが、ほとんど長浦小学校に来てやっています。

防災訓練の関係ですと危機管理課から長浦小学校に連絡が入って小学校区で活動する、吉倉町の方も一緒にやるということになっていますので、田浦の方も取り組んでいただければと思います。

○大堀教育政策課主査（事務局）

学校名の検討について、わだかまりのある中でお話をさせていただいていることについては誠に申し訳なく思います。

教育委員会として、通学の支援についていまだにお示しできてないというところが、まずは大きな原因だと考えています。

通学支援については7月にご報告できるように準備を進めていますので、その点についてはご了承いただければと思います。

学校名の検討についてですが、いろいろなご意見いただきまして、本当に申し訳なく思っています。

募集をやり直すというお話も出ましたが、一方で、すでにいろいろ考えて投票していただいている方がいるということもございます。

誠に申し訳ありませんが、本日の協議をもって選考等を進めさせていただければと思います。

これまでお話いただいた候補を申し上げますと、1の安針台、2の田ノ浦、3の長浦、4の安針・按針、6のアダムス、10の田浦という6候補が挙がっています。

これについて候補ということでご了承いただければと思いますが、いかがでしょうか。

《 各委員から異論なし 》

○大堀教育政策課主査（事務局）

ありがとうございます。

続いて、資料4では候補についての応募理由の記載があります。

これはあくまでも応募者の方からの理由になっています。

これについて、合同学校運営協議会から教育委員会への提案理由として調整したいと考えています。

一つ一つご意見をいただければと思います。

1の安針台についてです。

- ・新たな気持ちで新学校名を作った方が良い。他にはない学校名で、かつこいい。
- ・学校周辺の地名のため。
- ・三浦安針の墓跡がある塚山公園の麓にあり。三浦安針ゆかりの地であり未来を担う児童達に歴史に深く興味を持って勉学に励んで欲しいため。
- ・安針塚だと学校の名称でお墓(塚)のある名称は似合わないため、住所から「安針台」にしたら良い。
- ・公立学校の校名は、立地場所の地名を反映するのが好ましいと考える。
- ・安針には『水先案内人』（操船を指示する人）という意味があるので新たに進み行くに良いと思いました。

という応募理由です。

この理由について、教育委員会への提案理由としてご検討いただきたいと思います。

何か追加等がございましたら、ご意見をお願いします。

箇条書きになっていますので、若干の整理はこちらでしたいと思います。

○委員

安針台の台を消してもらえれば今の校歌がそのままはまります。

○大堀教育政策課主査（事務局）

安針ということであれば、候補4にあります。

○委員

失礼しました。

校歌を大事にしたいと思います。

○委員

応募理由の話に進んでいますが、学校名を絞ることをもう一度考えたらどうかといういろいろな意見は飛ばして理由を考え出しているのでしょうか。

○大堀教育政策課主査（事務局）

先ほど6候補として良いかご確認したので、その候補について、合同学校運営協議会として提案する理由をご検討いただければと思います。

○委員

そうすると、本日の意見というのは飛ばされて、学校名を集約しましたというようになってしまいませんか、大丈夫ですか。

○飯田教育政策課長（事務局）

前段で、通学支援に関してご説明できていない部分は申し訳ないという話をした上で、今回200人を超える方々からご応募いただいていますので、その方々の気持ちといったものを考え、候補を選定したいというお話しをしました。

委員の皆さまにご確認し、異議がなかったためご了承いただいたとし、会議を進めています。

○委員

一つ一つの応募者の理由に対して、この協議会の中で判断はできません、無意味です。

例えば、長浦小学校という名前の理由に対して田浦の委員が良いと思うわけがないではないですか。

先ほどの委員も校歌を大事にしてほしいというご意見で、振り出しに戻って話が進みません。

立場が違う人たちに応募理由の了承を求める意味が分らないです。

○大堀教育政策課主査（事務局）

承知しました。

それでは、応募理由はなしにして、合同学校運営協議会としては6候補が絞られたというところでよろしいでしょうか。

《 各委員から異論なし 》

○大堀教育政策課主査（事務局）

ありがとうございます。

繰り返しになりますが、通学支援に関しては少々時間をいただきまして、7月に改めてご説明できればと思いますので、よろしくお願いします。

○飯田教育政策課長（事務局）

長い時間のご協議ありがとうございました。

今後、ご協議いただいた内容を踏まえて、教育委員会会議で学校名の検討をいたします。

7月19日、29日にはそれぞれの学校で保護者説明会を開催しますので、その際は通学支援に関するご説明をしたいと思います。

また、学校名が決定した際はその内容をお伝えしたいと思いますので、よろしくお願いします。

次に、次第2の事務連絡です。

本日の会議録については、確認用の会議録が作成できましたらお送りいたします。

内容をご確認いただき、修正がある場合は送付文に記載の期日までに事務局へご返送ください。

ホームページで公開したいと思います。

続いて、第3回合同学校運営協議会の日程調整です。

○大堀教育政策課主査（事務局）

田浦小学校の保護者説明会を7月19日、長浦小学校の保護者説明会を7月29日開催したいと思います。

申し訳ありませんが、それ以降でないと日程調整ができませんので、第3回合同学校運営協議会はそれ以降の開催として、保護者説明会で説明した内容を改めてご報告いたします。

それでは、日程を確認します。

《 委員に日程確認 》

○大堀教育政策課主査（事務局）

それでは、7月31日の14時から、田浦小学校で開催します。

両校の保護者の方々へご説明した後に、そのご報告となりますので、よろしくお願いいたします。

○委員

最後に、田浦小学校保護者説明会でご回答いただけるとお約束いただいている「統合にかかわる田浦小学校保護者からの質問事項等への回答について（依頼）」を事務局へお渡ししたいと思います。

7月19日の保護者説明会までにご回答いただければと思います。

よろしくお願いいたします。

○飯田教育政策課長（事務局）

それでは、第2回田浦小学校・長浦小学校合同学校運営協議会を終了します。